

下水処理

膜分離活性汚泥法

固液分離を膜ユニットで実現

膜分離活性汚泥法とは、活性汚泥法の一つで、最終沈殿池による固液分離を反応タンクの好気タンク内に浸漬した膜ユニットで行う手法です。

特長

- 高度な処理水
SS、BOD、大腸菌群の高効率除去
- 省スペース化
膜による固液分離で、沈殿池、砂ろ過設備が不要
- 硝化、脱窒運転
反応タンクMLSS濃度を10,000mg/l程度と高濃度に維持でき、標準活性汚泥法と同等の滞留時間で硝化、脱窒が可能
- 発生汚泥量抑制
高MLSS設定可能で汚泥の自己分解が進み、発生汚泥量の抑制が可能

用途

